

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

松江赤十字病院 石田 知大

TEL 0852-24-2111 E-mail to_pin1414@yahoo.co.jp

平成19年から始まった、松江赤十字新病院建設工事ですが、昨年6月によりやく外来部門及び管理部門が入った本館が開業しました。さて、ここ数年市内では、「松江おでん」や「全国おでんサミット」という言葉を目にします。市内でそんなにお店がある訳でもないし、おでんと言えば静岡とか姫路また香川のうどん店に多いのに何故？サミットの主催者によると、おでん屋の数が『人口比』でトップクラスだそうです。つまり人口約25万足らずの地方都市ですから、そこそこの店舗数があればそのようになるようです。松江おでんの特徴は、青菜も食べることだそうです。お越しになった際には是非ご賞味ください。



ウチの取り組み！

平成22年3月の新病院部分開業時よりスケジュール表に印字された院内共通の受付番号とバーコードによる患者確認を行っています。

患者さんが部門総合受付でスケジュール表を提示すると事務員は①バーコード（入院患者さんはネームバンドのバーコード）、で受付を行うと共に、お名前を確認し検査室へ案内します。検査室では②受付番号で呼び込みを行い、③患者さんに自らお名前を名乗って頂きます。そして、④スケジュール表のバーコードよりモダリティへ検査情報の登録を行います。

このシステムを始めてからは、基本的に撮影室での患者さんの取り違いは起こっていません。



これから！

当院には救命救急センターがあり、県都松江で唯一3次救急を受け入れています。現在当科には救急撮影認定技師が2名います。昨年は認定者が中心となり支部主催の赤十字救急法競技大会に出場したり、院内ICLSコースのスタッフ参加、及び科員の受講への呼びかけを行いました。今年度は全科員を対象としてG2010に準拠したBLS講習や、当直時を想定して検査中に患者さんが急変した場合の対処法のシミュレーションを企画し、万が一、検査室で急変が起きた場合でも確実に対応できるように訓練していきます。この中でも、医療安全を考慮しながら対応したいと考えています。



医療安全への取り組みは、終わりのないものです。ソフトとハードを上手く咬み合わせながら進めていこうと考えています。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

富山赤十字病院 放射線技術課 氏名 廣瀬 正

TEL 076-433-2222 E-mail houshasen@toyama-med.jrc.or.jp

あいさつ …

当院は、東に立山連峰、西に神通川を望み快適な自然環境の中に立地しています。みなさまに信頼される病院をスローガンに掲げ、地域の中核的医療機関として活躍しています。

また、富山市内で2次救急指定病院に指定されており、当院を含む4施設を市内でほぼ等間隔になるように配置し、救急搬送時間の短縮を目指しています。



ウチの取り組み！

CT及びMRI操作室は読影室と同じ空間（以下、読影室）となるように設計されていますが、平成14年に増築された第2MRI室は別棟にて技師が一人で業務を行っています。この状況でも患者さんの急変時に素早く対応する為に、読影室に緊急用パトライトを設置して医師やスタッフがすぐに駆けつけることができるように工夫してあります。そして、この連携がスムーズに運用される様に医療安全管理者の立ち会いのもとで患者急変時のシミュレーションを行いました。

また、災害時のシステムダウン対応のシミュレーションや新人教育、造影剤によるショックを想定したシミュレーション等も定期的に行っています。

シミュレーションでは当事者が駆けつけたスタッフに指示を出すというシナリオにしましたが、スムーズな連携とは言えず多くの課題を発見しました。今後はスタッフ全員がすべき事を把握して、当事者をサポートできる体制を目指すことが必要だと思いました。



再発防止に向けて！

インシデントを減らすことを目標に、空き時間を利用して部署内でKYT研修を行いました。

初めて体験する人もいましたが、文字通り「危険予知」能力が身につくことを期待して今後も取り組んでいきたいと思っています。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

武蔵野赤十字病院 放射線科 櫻井 和明

TEL 0422-32-3111 E-mail sakukazu@musashino.jrc.or.jp

私たち武蔵野赤十字病院は東京都のほぼ中央に位置する武蔵野市にあります。当院放射線科は平成24年4月現在、放射線技師32名、看護師13名、事務員8名というメンバーで、X線撮影装置6台、CT装置3台、MRI装置2台、透視装置4台、血管造影装置3台、歯科撮影装置1台、パノラマ撮影装置1台、乳房撮影装置1台、骨塩定量装置1台、ポータブル撮影装置5台、核医学装置2台、放射線治療装置1台で業務を行なっています。



ウチの取り組み！

当課では2008年6月乳腺撮影(マンモグラフィ)装置の更新後、同等機種の装置を使用している他施設へ研修や、当院における勉強会を行い撮影技術の習得・向上に努めていましたが、7ヶ月間で意識消失4件(転倒1件含む)が起きました。このため転倒防止を目的に、医師・看護師(放射線科、外科、健診)・医療安全室・放射線技師のメンバーで「乳腺撮影転倒防止プロジェクト」を結成して活動を行い、2010年『医療と安全と質』学会において発表をしました。

活動内容としては患者状態を把握するため、痛み・食事・体調・不安(病気・痛み)等に関するアンケートを患者200名に行い、また急変時に技師が速やかに救急対応できるよう院内BLS取得の促進と、転倒事故後対策として撮影室床材の変更を関連委員会に提案し、変更しました。患者説明の統一化と不安軽減のため、マンモグラフィ検査の説明用紙を作成し、撮影患者に配布しました。また検査を受ける患者の気持ちを知ることと撮影技術標準化のため、職員による模擬撮影を計画したり、非定期的プロジェクト会議を行い、問題の共有化を図りました。結果、意識消失を起こす患者はいませんが転倒事故は今現在まで起きていません。

再発防止に向けて！

放射線科では年1回、業者に協力いただき「造影剤の勉強会」を10年以上続けています。また院内BLS講習を行い放射線技師全員が資格を取得しています。平成24年2月に医療安全管理者の資格を取得し、より一層の活動を行っていきたいとともに、『医療と安全と質』学会での発表も予定しています。

チームワークと情熱のプロ集団として医療安全に取り組んでいただいています。5S活動やQCサークル活動にも熱心です。この写真は血管撮影室です。5Sですっきり使いやすくなりました。これなら医療事故も起こりにくいですね。



医療安全推進室長から一言

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

日本赤十字社長崎原爆病院 放射線科部 酒田 俊介

TEL 085-847-1511 E-mail sakata@nagasaki-med.jrc.or.jp

長崎原爆病院は360床、中核病院として地域医療へ貢献しています。
地域並びに被爆者の皆様へ良質な医療の提供を目指しています。

長崎では今年も中国色豊かな灯の祭典『2013長崎ランタンフェスティバル』
が開かれました。

期間中は、長崎新地中華街はもとより、市内中心部に、約1万5千個にも
及ぶランタン(中国提灯)が飾られ、各会場には、大型オブジェが所狭し
と飾られます。機会があればぜひお越し下さい。



造影剤の副作用再発防止にむけて

当院では副作用が出た場合は、造影剤副作用カードを放射線科医師に記入してもらうことと、技師として毎回確認出来るようにRIS上のメッセージで日にち・症状・造影剤の種類を記すようにしています。メッセージが記入されていると青色のアイコンがピンク色に変化するため、目に付きやすくなっています。また、造影剤副作用というチェック欄があり、チェックを入れることによりオーダーを開くと注意メッセージが毎回自動で出てくるようになっていきます。このような取り組みにより、造影剤による副作用の見落とし防止に役立っています。

検査の前に患者さんの前回の状況や副作用時の症状から放射線科医と検査方法について話し合っています。

患者さんに安全な検査を提供しながら、スムーズに検査が進むように心がけています。



ローテーションで仕事をする中で、インシデント・アクシデントが起こった場合は、報告し、どのような状態で起こったのかをスタッフで話し合い、次に起こらないように情報を共有する場を設けています。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

古河赤十字病院 放射線技術課 染谷 欣美

TEL 0280-23-7111 E-mail info@kogajrc.or.jp



あいさつ …

当院は関東平野のほぼ真ん中に位置し10月には毎年「関東ドマンナカ祭り」が開催され大勢の人で賑わっています。北には日光連山、東に筑波山、南に富士山が見え自然豊かで、東京へも電車で1時間と交通の便も良い所です。2010年に新病院が完成し日赤病院初のオール電化病院となりました。



古河の桃祭り

ウチの取り組み！

当院では未だHIS、RISが構築されていないため患者情報は手入力でした。しかし当然の如く入力ミスが多く画像が電子カルテに反映されないと言う事態が多く起こりました。そのため撮影件数の多い一般撮影に関してはバーコードリーダーを導入し入力ミスを減らす事が出来ました。またMRI検査についてはチェックリストで確認を行い原則的に検査部位を問わず、すべて検査着に着替えていただいています。これにより、うっかり持ち込み事故の防止策になっています。さらに一昨年に発生した東日本大震災で得た教訓を生かし、課内のモニターのすべてを固定することで、落下防止、またそれによる怪我防止、破損防止になっています。固定器具は100円ショップで購入したもので、安価で効果大です。

再発防止に向けて！

患者さんの間違い防止策として、必ずご本人にお名前と生年月日を言っていただき、本人を確認してから検査を行う様にしています。また来月の新人研修の中では、昨年に引き続き、MRIについての安全講習会を行う予定です。



昨年4月より小児科が再開され、それまで以上に目配り、気配りが必要となりました。今後も、事故防止に向けて取り組んでいきたいと思っています。



係長から一言

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

日本赤十字社長崎原爆諫早病院 放射線科 大町 繁美

Tel 0957-27-2122 E-mail ohmachi@isahaya.jrc.or.jp

あいさつ・・・

長崎原爆諫早病院は平成17年4月1日に県立病院の移譲を受けて諫早市多良見町に開院しました。日赤病院のなかでは病床数140床の小規模病院で、呼吸器科、消化器科、循環器科、放射線科の内科系疾患を中心とした病院です。長崎県央・県南地域の被曝者医療、赤十字病院としての地域医療への貢献、二次救急輸送病院としての救急医療への貢献、結核入院施設としての政策医療の継承、人間ドックを主体とした健診事業の展開などを基本方針として診療を行っています。技師4名で日常業務、奇数日と土日祭日の拘束・オンコール業務を行い、地域に密着した救急医療を行っています。近くにはサッカーJ2に昇格したV・ファーレン長崎の事務所・ホームスタジアムがあります。応援をお願いします
写真は玄関前の桜並木です。3月中旬ぐらいからきれいに咲いてきます。



ウチの取り組み！

この知恵の輪でも患者誤認を防ぐためのいろいろな取り組みが紹介されました。当院でも「患者確認の徹底」、「院内ラウンドによるKY（危険予知）活動」、「5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動など安全環境提供のために職員一同取り組んでいます。また事故発生時のシミュレーションを行い、想定、対応訓練することにより問題点を把握し、体制の見直しをしています。

3月11日、東日本大震災より2年が過ぎました。まだまだ難題が続きますが、被曝を経験した長崎県から微力ながら応援しています。当院では患者さんの被曝量を減らすべく、胸部CTの経過観察の線量を初診時の半分にして被曝量軽減に努めています。

再発防止に向けて！

3月13、14、15日に病院機能評価Ver6.0の審査を受けました。半年前から各資料の点検もでき、業務マニュアル、画像検査の手順が再確認できました。

「心のゆとり」がほしいという事で、放射線科受付前の水槽にはグッピーとめだかが泳いでいます。隣のコップには生まれたばかりの赤ちゃんめだかも泳いでいます。
患者さんも待ち時間に見に来て楽しんで帰られます。



4月は長崎港まつりがあります。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

長浜赤十字病院 所属 放射線科部 氏名 勝間 明

TEL 0749-63-2111 E-mail nrchr@nagahama.jrc.or.jp

ご挨拶・・・

当院は琵琶湖の東北、長浜市の市街地にあり、隣接する八幡神宮の緑に囲まれ、文化遺産である曳山や大通寺、長浜城歴史博物館、黒壁ガラス館でも有名な所であります。また、病室からは伊吹山をはじめ四季おりおりの美しい山々を一望のうちに眺めることができる落ち着いた療養環境を有しています。

再発防止に向けて！

医療安全のため

患者確認は検査指示票を出して、名前（フルネーム）生年月日を本人に名乗ってもらい、検査部位（左右）と名前の漢字確認まで行っています。
また、CT・MRや他の造影検査では問診票・同意書はもちろん、腎機能・血液データは必ず取り、検査や造影剤の副作用についての説明を口頭にて患者さんに説明し用紙を渡して理解を得ています。

ウチの取り組み！

朝のミーティングでは連絡事項と患者さんへの接遇の励行を促しています。毎月、定例会議を診療終了後に行い、各部署・各委員会の報告はもちろん、業務改善に向けての検討事項についても遅くまで話し合いをしています。さらに同時に2例の勉強会をもうけ、スライドの作り方や発表の方法等、個人のスキルを高めるようにしています。また、別の日に放射線科医と画像検討会を行い、第3次救急病院として医師や看護師に画像診断についてのアドバイスが出来るよう読影補助能力の向上をはかっています。



すべてのPACS画像の検像と実施入力の確認を進めています！



医療事業部 医療課

長浜城歴史博物館



黒壁ガラス館

長浜曳山祭り



現在、立体駐車場を含めた改築工事中です



次は 名古屋第一赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

名古屋第二赤十字病院 所属 放射線科 氏名 猪岡 由行

TEL 052-832-1121 E-mail ioka@nagoya2.jrc.or.jp

あいさつ・・・

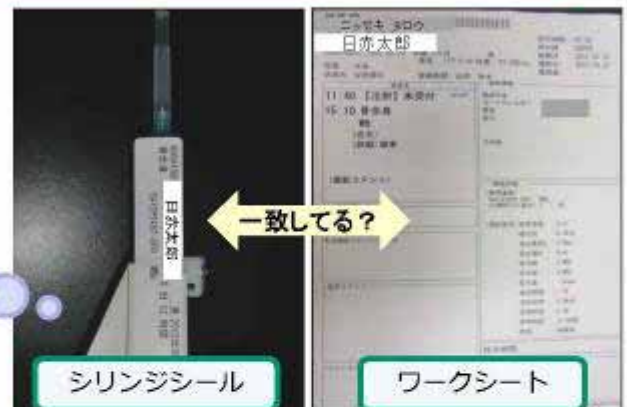
名古屋第二赤十字病院は愛知県名古屋市東部丘陵地帯に位置し、病床数812床の病院です。なお同院は昭和区八事にあることから「八事日赤」の名称で親しまれています。病院へは地下鉄名城線「八事日赤」駅のコンコースからエレベータで直結されており気象条件に左右されることなく来院いただけます。



ウチの取り組み！

核医学検査室で行っている放射性医薬品誤投与防止の取り組みについて紹介します。RI投与前に患者様に対してワークシートとシリンジシールの一致(名前、ID、検査名、投与量)を医師と放射線技師とで確認します。またシリンジシールを患者様に見せながら名前を名乗って頂きます。名乗れない患者様に対してはネームバンドによる確認を医師と放射線技師とで行っています。RI投与後は速やかに使用済みRIシリンジ、ワークシート、シリンジシール等を片付け、注射用ワゴン上は常に次の患者様の準備のみとなるように周知徹底しました。

放射線科医師以外のRI注射に不慣れな医師もRI検査室にきます。放射線技師は注射の介助に必ずしも付けるとは限りません。そこでRI注射のマニュアルを作成し、RI注射前に一読して頂くよう薦めています。



再発防止に向けて！

当科では侵襲的な検査、治療の際にタイムアウトを導入して誤認事故防止に努めています。タイムアウトとはご存じのとおりその検査、治療に携わる全ての職員と患者様とで患者様名及び検査内容、治療部位の確認をする作業です。

また非侵襲的な検査ではワークシートを患者様に見せながら名前を名乗って頂いています。その際検査部位、内容の確認も併せて行っています。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

函館赤十字病院 放射線科部 中村 ひろみ

Tel 0138-51-5315

函館は北海道南部に位置する港湾と観光の街です。「ミシュラングリーンガイド」でも三ツ星に輝いた函館山からの夜景はことのほか美しく、津軽海峡に浮かぶ漁火がそれに花を添えます。平成27年度には新幹線の乗り入れも予定されていますので「北の玄関口、函館」へ機会があればぜひ一度お立ち寄りください。



ウチの取り組み！

院内では医療安全部会が毎月開催され、インシデント報告、症例検討を行って各部署での情報の共有、再発防止に努めています。部のミーティングにおいてはハット・ヒヤリ報告を実践することでニアミスに対する問題点を抽出し出来るだけの対策をとるようにしています。近年の報告内容ではRIS(未対応装置含)への手入力時の誤入力と、画像サーバへの転送内容ミスが大部分を占めており、ヒューマンエラーと分析されるものが多いので個人の気合い9割と環境改善1割で克服しようと日々奮闘しています。

再発防止に向けて！

以前にMRで酸素ボンベ吸着のトラブルを経験しました。「まさかウチで!!」、その時の光景と押せども引けどもビクともしなかったボンベの感触は今も鮮明に記憶に残っています。そこで再発防止策ですが、①酸素ボンベのMR対応品化、②備品のMR対応品であることの明示化、③MR用ストレッチャー、車いすの持ち出しの禁止、以上の徹底により再発防止に努めています。



医療安全への取り組みは「正確な情報を共有したうえで、意見を出し合い解決を探る」を念頭に取り組んでいます。終わることのない取り組みだと思えますので、地味ですが継続性を持って取り組んでいきたいと思っています♥



担当 中村から一言

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

秦野赤十字病院 湯山浩司

Tel 0463-81-3721

秦野赤十字病院は、神奈川県中西部の秦野市にあります。
東京・横浜・湘南海岸や箱根まで車では1時間位の所です。
市の面積の半分は山林で、丹沢の登山口。週末の朝になると
前は、登山客でにぎわいます。
また、「秦野」という名前の小惑星もあります。



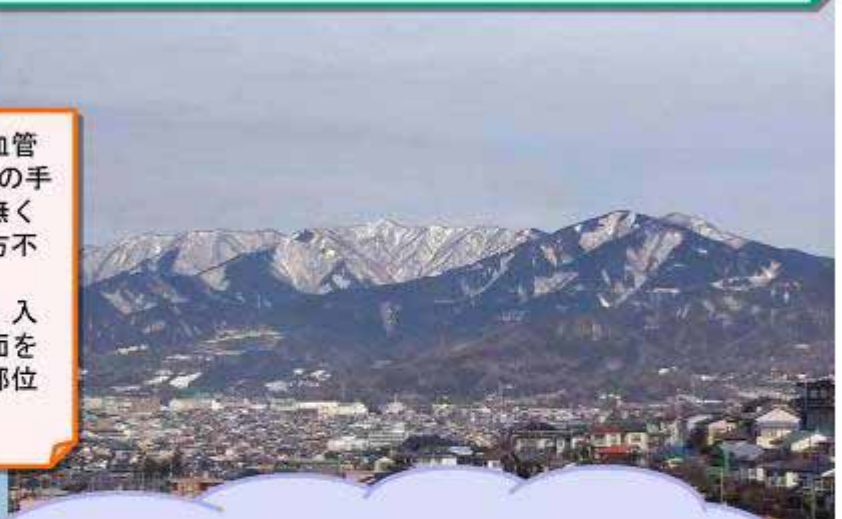
ウチの取り組み！

当院では、2002年の移設時からRISを使用しています。
このRISの機能の一つに、HISからのコメントの他に、検査毎と患者毎の2種類のコメント書き込み機能があります。これを使い、検査の注意事項や禁忌事項、患者様への注意事項を伝言として科内で情報共有できるようになりました。

具体的には、アルコール綿・造影剤の使用が出来ない方・ペースメーカーを挿入されている方・検査内容の指示・予約時間に遅れてくる連絡まで、一度RISに記録すれば、受付や他の技師にも情報が伝達できるようになっています。救急室からの優先度の高い緊急検査の場合や複数の検査室で検査をされる患者様の連絡や難聴の方・外国人の方・名前を呼んでも答えてもらえないときなどにも役立っています。RISやCRコンソールのPCから情報の入力が可能です。

再発防止に向けて！

RISの導入によりCT・MRI・血管撮影・X線TVなどで患者氏名・IDの手入力が自動化された為、誤字入力が無くなりました。PACS内で画像が行方不明になることもありません。
また、患者取り違い防止対策として、入室後、患者様のファイルとRIS画面を照合し、患者様には、お名前と検査部位を確認するようにしています。



都心から近く、登山のコースが多い丹沢は、上級者から初心者まで楽しめる山です。家族でハイキングやキャンプにも、4月5月は、良い季節です。新緑の丹沢をおススメします。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

八戸赤十字病院 放射線技術課 松倉 裕次

Tel 0178-27-3111 E-mail 730co001@hachinohe.jrc.or.jp

当院は病床数434床、診療科24科で、人口24万人の地方都市八戸市の西地区に位置し、JR八戸駅から車で5分の所にあります。技師は17名で、平均年齢32歳と非常に若くてピチピチしています。

八戸は、夏は偏東風(ヤマセ)の影響を受け冷涼(最近はそうでもないですが)、冬は晴天が多く乾燥しています。ですから冬は非常に寒く、氷都八戸と呼ばれスケートやアイスホッケーが盛んな街です。



ウチの取り組み！

当院にてMRI検査室入室手前で「ペースメーカー挿入しています」と患者さんから申告され、難を逃れた事例がありました。

このため医療安全管理委員会の協力により、「MRI検査室チェックリスト」を作成し、外来・入院全てについて検査前の**看護師**の確認・サイン、検査時の**技師**の確認・サインをするダブルチェックで運用しています。



再発防止に向けて！

さらなる安全確立のため放射線技術課内での取り組みとして、わかりやすいイラストのついたチェックリストで**入室直前**に最終確認することにした。

右図のようなイラストのついたチェックリストを用い、入室直前に最終確認するよう**掲示**し、周知しています。



ここ八戸はB1グランプリ発祥の地であり、北九州大会において念願の1位を獲得しました。せんべい汁とは、肉、魚、野菜、茸などのダシ汁に、鍋用のせんべいを割り入れ、煮込んで食べます。せんべいの硬さは好みにもよりますが、私のおすすめはアルデンテ状態です。皆様も機会があったら是非ご賞味ください。



課長(兄貴と呼ばれている)から一言

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

名古屋第一赤十字病院 放射線診断科部 大西 勝治 高橋 徳史

Tel 052-481-5111 E-mail x-ray@nagoya-1st.jrc.or.jp

名古屋第一赤十字病院は、名古屋市中村区に位置しており名古屋市営地下鉄駅と直結した852床の病院です。平成25年3月、新たにパースセンター及び緩和ケアセンターが竣工しました。放射線部門では、同時期に最新のDual CTが稼働を開始します。

地元では『中村日赤』の名で親しまれ、名古屋市西部と愛知県尾張地区をカバーする基幹病院として今後も発展し続けます！



3月竣工パースセンター外観

ウチの取り組み！

検査室にベッドで入室する患者を検査台に移動させる際には、ローラーボードを使用します。実際の患者移動時に、輸液ルートやドレーンチューブをボードに巻き込み抜去してしまうトラブルが、放射線部門をはじめ様々な部署で発生してしまいました。

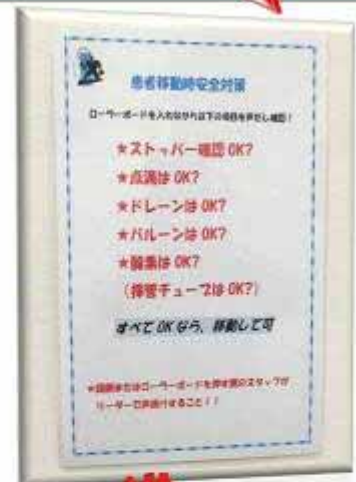
安全意識の徹底と安全行動の実行を確認するために、放射線担当の看護師さんと協同で写真のような啓発ポスターを作り、検査室内に掲示しました。検査実施や介護の際には、必ず複数人で患者さんに対応することを原則とし、目視だけでなく、声出し・指差し確認のうえで行動するようにしました。検査数も多く、担当者には負担をかけてしまいますが、安全確保が第一です。

安全確認は、**目視・発声・指差し**が非常に大切です。列車の車掌さんと同じですね！

MR検査を安全に実施する

昨秋には、当院循環器内科でもMRI対応ペースメーカーの埋め込みが始まり、絶対禁忌という『常識』が一部変わりつつあります。MR検査の現場では、患者さんはもちろん我々医療者側の勘違いやうっかりからも、トラブル・事故が発生しやすいのではないのでしょうか。

検査当日は、訪れた患者さんに待ち時間を利用してMR検査の内容と禁忌事項を確認できる、平易な内容の説明書を作成しお渡ししています。それにより、患者さん自身のみならず検査実施者や介護者も確認するようにして、起こりうるトラブルを未然に防止すべく努めています。



放射線部門では、新しい検査機器や造影剤等の最新情報があれば、定期的に関くミーティングや院内情報システムのメール機能を利用し、スタッフの専門知識を充実させて、患者サービス向上を目指しています。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

浜松赤十字病院 放射線画像診断課 猿田 忠司

Tel 053-401-1111 E-mail radiol-th@hamamatsu.jrc.or.jp

あいさつ・・・当院のある浜松市は浜松餃子が有名で、餃子消費量2年連続日本一を達成しました。また、GWには風揚げ合戦で知られる浜松祭りが行われ、市内ではラッパの音が鳴り、人出も多く見られます。

浜松赤十字病院は2007年11月に、現在の浜北区に新築移転をしました。移転時のパタパタから気付けばすでに、5年半が過ぎました。今後も地域の中核病院として、住民の皆様の信頼に応えられるよう日々頑張っていきます。



ウチの取り組み！

当院では、頭部MRIについては夜間・休日問わず検査を行っています（頭部以外は担当者呼び出し対応）。時間外の検査は、普段MRIに携わらない放射線技師、看護師で行われます。

このような状況下でも、当然事故を起こしてはなりません。そこで放射線技師以外の職種、主に看護師向けの研修会をMR担当者が開催しています。昨年度から始めたばかりですが、入室時の注意点やMR室に持ち込めないものの解説など、基礎的なことについて30分程度の研修を行いました。

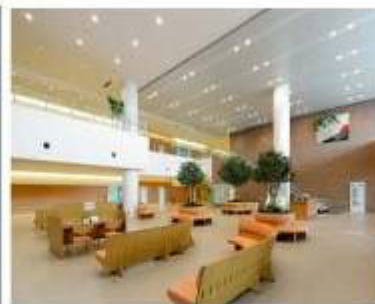
幸いにも当院ではMR室での吸着など大きな事故は発生していませんので、今後もこのような取り組みを行い、事故の起こらない体制作りをしていきたいと考えています。

事故防止に向けて！

当院ではMRI検査時の体内金属や装着品（補聴器等）のチェックを以下の順序で行っています。

- ①医師がオーダー入力の際、ペースメーカー・体内金属の有無にチェックを入れる。
- ②オーダー入力後、MRI問診票が印刷される。看護師がこの問診票に沿って装着品など詳細な項目をチェックする。
- ③撮影前に放射線技師が、再度問診票で体内・体外金属のチェックを行なう。

上記のように3回に渡ってチェックを行い、体内金属や装着品の見落としをしないように努めています。



当課にも4月に新人技師が入職しました。撮影技術の継承はもちろんのこと、医療安全に関することにも一緒に再確認していきたいと思っております。



担当 猿田から一言



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 姫路赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

姫路赤十字病院 放射線技術部 畑中 宏基

Tel 079-294-2251 E-mail kinkixp@hrc.hp.com

5月11日に第5回一病院フェスタを開催しました。放射線技術部では、「シルエットクイズ、何が写ってるんでしょうか？」と題してCTやMRIで撮影した果物や魚の名前を当てていただくブースを手作りしました。各部門で趣向を凝らしたブースを開き、多くの皆様に参加いただき大盛況でした。

来年のNHK大河ドラマに姫路出身の「黒田官兵衛」が決まりました。来年度(H27年3月)には姫路城の平成の大天守保存修理も終了し、優美な姿がご覧頂けると思います。姫路にいらっしゃる時には、ぜひ姫路日赤にもお立ち寄りください。



うちの取り組み！

造影剤の重篤な副作用の適切な対応が出来るように、医療安全講習会として「コードブルーシミュレーション」を行いました。前回のCTに続き、行動制限のかかるMRI室で実施しました。

医療安全に向けて！

——肝臓MRI検査中、造影剤注入後患者が気分不良を訴え、担当技師・看護師が対応中に意識消失。重篤な造影剤の副作用と思われる緊急コールを鳴らす——

麻酔科医師立会いのもと、看護師1名・技師3名・医師1名で放射線技術部造影検査(副作用)対応マニュアルに沿ったコードブルーシミュレーションを行い、その後反省会を実施しました。実際、今まで重篤な副作用が表れることはなかった為、少し忘れかけていた対応マニュアルを再認識することができました。参加者からは「MRI検査室で起こった患者の急変時の対応を理解することができ、大変勉強になった。」との意見が多く寄せられ、好評でした。



(MRI準備室での心肺蘇生)



(コードブルーシミュレーション後の反省会)

本番さながらのシミュレーションです。今後はMRIだけでなくあらゆる部門で定期的に行う予定です。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

引佐赤十字病院 放射線技術課 神谷守孝

Tel 053-542-0115 E-mail info@inasajrc.or.jp

浜松市の最西端・浜名湖の北岸の明光風靡な場所に当院はあります。平成23年度に赤十字初？の全病床を、一般病床から療養病床に転換しました。最初は入院患者様も少なく、“大丈夫かな～”と心配しましたが、今は病床稼働94%と療養型の病院として地域に定着しています！



ウチの取り組み！

当院では地域性により、ご高齢の患者さまが多くいらっしゃいます。

そのため、撮影の際には撮影室への入室、撮影台への移動、撮影中の体位変換、退室等は常に患者さまから目を離さず、転倒等が起きないように特に気を配っています。

また、放射線技師が1名しか居ないため、介助が必要な患者さまには必ず外来の看護師が付き添い、転倒や落下等の事故が起こらないよう注意して対応しています。

さらに、患者さま1人1人に必ず声をかけ、症状の確認等を徹底して行うことにより、伝票の記入ミスや患者さまの人違い等の撮影ミスを防いでいます。

MRIやCTといった検査においては、造影剤使用への問診票、体内金属等の問診票により医師と技師とで確認をして、安全に検査できるよう対応しています。

再発防止に向けて！

忙しくて気持ちにゆとりがないときや、仕事に慣れが生まれたとき等は、基本的な事がついつい忘れがちになってしまいます。その為、常に患者さまの立場に立って行動できるよう周知徹底し、心のゆとりを持って働ける職場づくりを大切にしていきたいです。

今後、益々高齢化が進んでいきますが、こういった小さな事の積み重ねが医療の安全につながっていくと思います。

療養病床に転換後は放射線技師1名でがんばっています。“1人しかいないから”という言い訳が通じる世界でないで、事故が起きないように気を張っています！



放射線技師から一言



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 福岡赤十字病院 からお知恵拝借！！



福岡タワー
セタイルミネーション

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

福岡赤十字病院 放射線科部 八波 誠一

TEL 092-521-1211 E-mail housyasen@fukuoka-med.jrc.or.jp



食べ物もうまかよ～！

福岡赤十字病院は150万都市福岡市のほぼ中心部に位置し、博多駅からもバスで10分程度の距離で交通の便も非常に良い場所にあります。

当院は①24時間の救急体制(1次救急から3次救急まで)②災害対策拠点病院としての施設整備③健康管理のための健康管理センターの充実を旗印に掲げ、2013年3月に511床(感染症病床2床含む)の規模にて新病院をグランドオープンしました。新病院は、ICU・CCU・ECU・HCUを1フロアに集約し、ヘリポートも完備しています。放射線科においても、救急専用の撮影室・CT室を確保しています。また、健康管理センターには専用の胸部撮影室・マンモ撮影室・透視室を設置したことで、完結型のセンターとなりました。現在、放射線科職員は医師5名・診療放射線技師24名・看護師14名(内視鏡兼務)・受付4名で構成されています。

博多祇園山笠



ウチの取り組み！

博多もんは祭りが好きとーと！

PACSが導入され3年が経過しました。当初は検像システムが十分に生かされず、左右反転像を送信してしまうなどのアクシデントが起こっていました。これを踏まえ、メーカーと共に検像(QA)システムの改善に取り組んできました。検像時、画像を確認する際のQAシステム画面上に患者名・撮影部位・反転マーク(画像が左右反転しているか)を表示させています。検像した画像は、未検像から検像済へと表示が変わる様にし、検像の見落としを無くしています。また画像を編集した場合も、未編集から編集済へと表示が変わる様にしています。この作業を1日4回程度(約2時間おき)責任者(主に技師長)が確認し、チェックシートにて確認した時間と氏名を記入する様にしています。今後は、依頼コメントや撮影コメントが表示されるようにしたいと思っています。



マークにて
P⇒A方向で
撮影した事が
確認できる

内臓反転の患者



QA画面にて
撮影部位、撮
影方向、氏名、
性別、年齢等
の確認を行う



検像後は、未検像
から検像済に表示
が変わる

QA検像履歴		QA検像履歴	
検像日時	検像者	検像日時	検像者
1		1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	

QAチェックシート

再発防止に向けて！

MRI検査に於いては、昨年、補聴器・時計・万歩計などの持ち込みによるアクシデントが数件起こり、従来からの問診・説明書・口頭でのチェックでは不十分と考えました。そこで、これまでの問診・説明書記入の他にまず病棟・外来から案内する際、医師が看護師にMRI室配布のチェック用の絵(図)を参照に患者さんの金属等の有無を確認してもらいます。次にMRI前室で担当の看護師が再度チェック、最後に検査室に入る直前に担当の放射線技師が専用のチェック表で1項目ずつチェックし、最終確認を行い確認者のサインをしてから検査室内に案内する様にしました。何重ものチェックは、患者さんにとって負担かと思いますが、事故防止のためにご協力をお願いしています。



病棟用、
MRI検査前
チェック用の
絵(図)

チェック項目	
<input type="checkbox"/> ヘルメット着用	<input type="checkbox"/> 入れ歯
<input type="checkbox"/> 補聴器	<input type="checkbox"/> 時計、腕時計
<input type="checkbox"/> 指輪	<input type="checkbox"/> 心電図
<input type="checkbox"/> 金属製の手すり	<input type="checkbox"/> 金属製のベッド
確認者	
検査室長	

最終的な
チェックシート
MRI担当の、
放射線技師が
記入



今後新病院建築を検討されている方は、後で後悔しないよう複数人で会合へ積極的に参加し、毎回詳細な記録を取り、保存した方が良くかと…
(経過の資料は書面で残す事が大事です!!)
良い設計は良い医療安全にも通じると思っています



医療事業部 医療課

新しか病院は気持ちよかば～い！

次は 福岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

福島赤十字病院 放射線科部 三次 鏡太

TEL 024-534-6101

あいさつ …

こんにちは!! 当院は福島県福島市の中心地にあり、福島県県北地域の災害拠点病院として日夜活動しています。最近では、厚生労働大臣より救急車搬送件数が地域で最も多かったということで、表彰を受けました。近くには花見山や信夫山など、景色がとてもきれいなところや、飯坂温泉や土湯温泉といった観光地も近く環境にも恵まれています。

一昨年原発事故で心配して下さった方も多いと思いますが、今は元気いっぱい毎日笑顔でがんばっています!

がんばっぺ! 福島!!

ウチの取り組み!



当院では、一昨年の福島原発の事故による放射能汚染・放射能被ばくの影響から、翌年の4月よりホールボディカウンタでの内部被ばくの検査を始めました。始めは影響の大きいと思われる小児と妊婦を対象とし、その後は少しずつ対象を広げていきました。

検査は立位式で、一人ずつ2分間の測定を行っています。日頃は2分間なんてほんの短い時間のように思いますが、実際に検査を行ってみると、ただ立っているというのはストレスも多く、とても長い時間のように感じます。

そのため、子供が検査する際はアンパンマンの曲を流しながら検査を行ったり、なるべく声をかけながら検査を行っています。



花見山

平成29年度には新病院が完成予定で、職員一同モチベーションを上げて取り組んでいます。震災の影響はまだまだ消えませんが、これからも前向きにこれからも頑張っていきます。



放射線科一同



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 舞鶴赤十字病院 からお知恵拝借!!



丹後とり貝

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

舞鶴赤十字病院 放射線科 氏名 上田 一樹

TEL 0773-75-4175 E-mail x-ray@maizuruh.jrc.or.jp



岩牡蠣

あいさつ ...

京都の北部、鶴が羽を広げて降りた形の舞鶴湾を望むこの地は、細川幽斎の建てた田辺城の城下町「西舞鶴」と、日本で唯一の保安学校・海上自衛隊・造船の中、舞鶴・岸壁の母で有名な引き上げ桟橋を持つ「東舞鶴」、合わせて86,000人の街であります。昭和28年の開院から、60周年の今年回復期リハビリテーションに特化すべく、東館の増設工事もあり、より一層地域に貢献出来る病院にと全職員取り組んでいます。

旬の魚介類も美味是非ともご賞味ください。



うちの取り組み！

放射線防護の3原則。距離・時間・遮蔽。誰もが知ってる！でも、内視鏡カメラの長さは決まっている（距離）。手技は複雑になり、時間は延びるばかり（時間）。じゃ今必要なのは、遮蔽でしょ。って事でかぶせてみました。ERCP専用防護カーテン、遮蔽率90%の優れもの。医療従事者の安全（被爆の低減）も、守って行きましょう。



ちょっと使える小物！

当院ではTKA前検査（膝関節計測撮影）に100mmのポイントマーカーを使用しております。通常テープにより固定していましたが、時折マーカーの落下で再撮が必要になっていました。再撮防止に、こんなものを作ってみました（右写真）。コンデジ用三脚を利用し、マーカーの保持台を制作しました。高さ調整も自在に出来て、便利です。特許は申請しておりませんので、皆様の施設でも御利用下さい。



9月1日より、新しい電子カルテシステムが稼働しオーダーリングがスタートします！ペーパーレス運用になり環境がかなり変化しますので、事故が起きないように本人確認・指示確認を再度徹底し、放射線業務（医療安全）に取り組みたいと思います。

技術係長 畑中 秀典



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

広島赤十字・原爆病院 中央放射線科 山根 健二

Tel 082-241-3111

ご挨拶・・・

広島赤十字・原爆病院は広島市の中心部にあり、原爆ドームから1.6km離れた場所に位置しています。病床数598床、技師数は29人です。

広島のご当地グルメといえばお好み焼きです。先日『ミシュランガイド広島版』が発行され、病院の近くにあるお好み焼屋も紹介されていました。広島に来られた時は、探してみてください。



1. 両腕関節 正面・軸	11. 両腕関節 正面	21. 両腕関節 軸位
2. 両腕関節 正面・軸位	12. 両腕関節 軸位	22. 両腕関節 フラウエ
3. 両腕関節 正面・軸位・軸位	13. 両腕関節 フラウエ	23. 両腕関節 フラウエ
4. 両腕関節 正面・軸位	14. 両腕関節 正面	24. 両腕関節 軸位
5. 両腕関節 正面・軸位	15. 両腕関節 軸位	25. 両腕関節 フラウエ
6. 両腕関節 正面・軸位	16. 両腕関節 フラウエ	26. 両腕関節 フラウエ
7. 両腕関節 正面・軸位	17. 両腕関節 正面	27. 両腕関節 軸位
8. 両腕関節 正面・軸位	18. 両腕関節 軸位	28. 両腕関節 フラウエ
9. 両腕関節 正面・軸位	19. 両腕関節 フラウエ	29. 両腕関節 フラウエ
10. 両腕関節 正面・軸位	20. 両腕関節 正面	30. 両腕関節 軸位

ウチの取り組み！

医師が検査オーダーを出す画面にひと工夫をしています。『左』を『ひだり』で表現しました。

神戸赤十字病院さんもRISで同様の工夫をされてましたが、当院では電子カルテで行うことで、一画面に似た字が並ぶこと避け、『左』『右』を間違えるミスを少しでも防止できればと思っています。

再発防止に向けて！

以前は、当院でも検査時の患者間違えは時々起きていました。

3年前にRISを導入し、入室時に氏名を名乗って頂くことに加え、**患者本人が持参した診察券（IDカード）**を利用して、検査リストより患者を選択することで、現在では患者間違えはなくなりました。



なにか工夫出来ることがないか、キョロキョロしながら仕事してます。



診察券と私

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

松山赤十字病院 中央放射線室 高本 研二

TEL 089-924-1111



あいさつ・・・

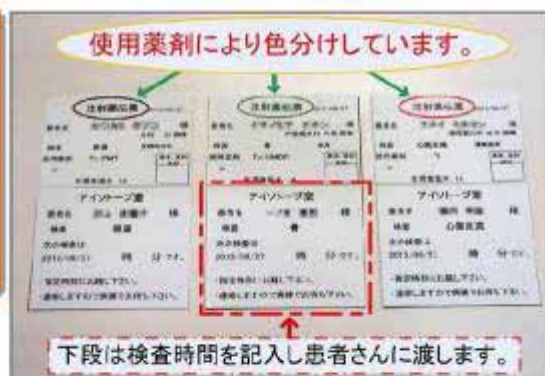
松山赤十字病院は四国の左上、愛媛県松山市にあります。文豪・夏目漱石が小説「坊ちゃん」の中で「温泉だけは立派なものだ」と絶賛している道後温泉の近くです。しかし、松山は「温泉だけ・・・」ではありません。宇和海から瀬戸内の美味しい魚、果物、そしてお酒といろいろあります。みなさん、これらを堪能してみませんか。ぜひ松山に「おいでなまし！」

ウチの取り組み！

放射線科では、患者さんから診察券受け取り、姓名・生年月日を言ってもらい本人確認をします。また、RISの登録は必ずカードリーダーで診察券を読むことにしています。原則、診察券を用いることで、マウス操作やキー入力操作によるヒューマンエラーを無くすようにしています。病院全体で患者さんの本人確認のために姓名・生年月日を言ってもらいたくことが、職員だけでなく患者さんにも浸透してきたようです。以前は怪訝な顔をされる方も多くいたのですが、今では反応も良く、スムーズな流れで聞くことが出来ています。

再発防止に向けて！

R I室では、検査前日に患者情報を専用のデータベースに入力しています。初めは、記録簿等のR I管理としての運用が目的だったのですが、今では患者情報を記した用紙を印刷し、看護師さんの確認のために役立てています。また、投与間違いを防ぐために、薬剤の種類によって文字色を変える工夫をしています。間違いを防ぐために様々な手を講じますが、慣れによる確認不足が生じてはいけません。確認を疎かにしないために、意識を持たせる工夫をしていきたいと思ひます。「目でヨシ！手でヨシ！声でヨシ！指差し呼称」



松山赤十字病院は今年で開院100周年を迎えました。これからも皆さんに愛される病院であり続けたいと思ひます。





医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



水戸赤十字病院 放射線科部 澤田 泰考 海老沢 平司

TEL 029-221-5177 E-mail houshasen@mito.jrc.or.jp

あいさつ・・・

当院は、茨城県の県庁所在地である水戸市にあります。
水戸といえば黄門様。そして借樂團が有名です。

「水戸を離れて東に三里、波の花散る大洗」
福島原発事故の影響より海水浴客が激減しましたが、
昨年より徐々に戻りつつあります。



ウチの取り組み！

CT検査において、腎機能が低下した患者に対し適正な造影剤量を投与することは、造影剤腎症のリスクを低めることであります。しかし、指示の確認を怠ったことにより過剰投与の事例が発生したため、医療安全管理者・看護師・放射線技師で協議を行い、問題点と改善方法について検討しました。

事例は、放射線科医への1.2を超えたCRE値報告と、造影剤減量指示を担当する技師、それを再確認する看護師間の連携ミス。更に、インジェクターに入力する投与量の再々確認を怠ったことが原因でした。

問題点は、医師の指示が口頭のみで、技師・看護師も各々がカルテと問診票に記載するだけだったことでした。改善方法として、問診票に医師の指示を赤字にて明文化し、チェックリストの改善とCRE値記載・投与量の記載・入力量チェック後、各々が確認サインをする箇所を追加することにしました。

《問診票》造影剤検査をうけられる方へ

旧版の問診票（左）は、指示が口頭のみで、記載項目が少なく、確認のしやすさが不足していた。

改訂



《問診票》造影剤検査をうけられる方へ

改訂後の問診票（右）は、指示が赤字で明文化され、チェック項目が増え、確認のしやすさが向上している。

再発防止に向けて！

CTのみならず、造影剤を使用する検査では、問診票・同意書の確認を技師・看護師でダブルチェックしています。

また、モダリティに関わらず、定期的に三者協議を行い、確認項目の見直しや事務方を含めたスタッフ間で患者情報の共有化を図り、安全対策に努めていきたいと考えます。

福島第1原発事故以降、放射性の塵(?)の付着により、CRのIPに異常斑点カブリが半年以上続きました。消去処理に苦慮したが、やっと落ち着いてきました。しかし、毎朝の一次消去は続けています。

技師長から一言

次は 横浜市立みなと赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

横浜市立みなと赤十字病院 放射線科部 藤野 香緒里

Tel 045-628-6100 E-mail k-fujino.radio@yokohama.jrc.or.jp

当院は横浜中華街にほど近く位置し、横浜市より日本赤十字社が指定管理者に指名されている、全国の赤十字病院の中でも珍しい市立病院です。救急車の受け入れ台数は年間1万台以上、全国でもトップクラスであり救急医療に力を入れています。また、免震構造であり、船着き場・ヘリポートを有し、陸海空と地域の災害拠点病院としての使命を果たしています。

病院の最上階からは、みなとみらいの夜景が一望でき、夏には山下公園の花火大会を楽しむことができます。



ウチの取り組み！

当院では、マンモグラフィ装置を更新した際、操作に不慣れなこともあり、左右逆のマークをいれてしまうというインシデントが発生しました。

再発防止に向け、視覚的に分かりやすいように工夫を行いました。

① FPDの左右(図1)、② 操作コントロール(図2) ③ 管球の左右支柱(図3) の3ヶ所に左右で色分けしたシールを貼って、確認しやすくしています。

①



②



③

再発防止に向けて！

当院ではインシデントが発生した場合、インシデントレポートを提出し、その内容をまとめ、技師全員で共有しています。重要事項などは、院内メールにて即座に配信し注意喚起を行っています。

また、最近では様々な医療機器の品質管理も医療の質を高めると考え、放射線科内で画像品質管理委員会を立ち上げました。特に、高精細モニターに関しては、病院内にある全てのモニターを半年に1回の頻度で品質管理が行えるようチェック表を作ったり、各モニターの使用時間を調べ、極めて使用時間が多かったモニターには電源をこまめに消すよう注意喚起を促すシールを貼る等しています。

今後は、理学療法士の方に、患者様の負担が少ない移動方法について講義を開いてもらうなど、他部署とも連携を図り、患者様により良い医療を提供するため日々努力をしたいと思っています。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

三原赤十字病院 放射線科部 安藤能孝

TEL 0848-64-8111 E-mail houshasen@mihara.jrc.or.jp

ごあいさつ

当院のある三原市は、広島県東部に位置し、観光都市として有名な尾道市のお隣になります。山陽新幹線と在来線が乗り入れるJR三原駅から東へ10分間歩くと、平成22年10月に新しくなった三原赤十字病院に着きます。8人（女2、男6）の技師で赤十字理念のもと、さまざまな医療活動に取り組んでいます（＾＾）。

先月は病院機能評価（G3_Ver.1.0）を受審しました。

（病院HP ⇒ <http://www.mihara.jrc.or.jp>）



総合病院 三原赤十字病院
創立：昭和27年4月1日 病床数：226床

ウチの取り組み！

⇒確認の手間を惜しまない！

当放射線科部へ検査に来られる方は、①受付時②撮影室へ呼び入れ時③撮影時の計3回、名前を確認されることになります。しかも、本人に名乗って頂くことにしています。以前は診察券のみで確認しておりましたが、違う方の診察券を持って来られる事例が何回か続いたので、この方法を採用しております。3回も確認するのは非効率かもしれません。しかし、「安全推進に『効率性』と『見返り』はない！」という理念を共有し、手間を惜しまない確認作業を行っているお陰で、確認ミスによる事故は起こっていません。



こんな案内も（受付）→



再発防止に向けて！



昨年、MRI検査において点滴台の吸着事故が発生しました。

当院のMRI室は、操作室側から入室する構造なので、技師による確認が容易となっています。しかし、装置画面の操作に気を取られ点滴台のチェックを怠ったのが原因で起きてしまいました。被験者に危害は及ばず、すぐに復旧できて事なきを得ましたが、反省会を開き、①安全確認の徹底と②非磁性体の点滴台を検査室入り口の目につきやすい場所に移動することにしました。

確認の手間を惜しまないことの重要性を再認識させられる事例でした。

← 検査室入り口に非磁性体点滴台を設置
わかりやすくテープを巻いてみました！

料理でも何でも手間を惜しまず相手を想って
仕事をするのがプロと言うものよ！
安全推進に見返りは無いが、取り組む自分を
褒めてやるのが長続きの秘訣かな？



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

三原名産のタコさんから一言

次は 盛岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

盛岡赤十字病院 医療技術部放射線画像診断技術課 新田 仁

019-637-3111

あいさつ・・・

当院は、岩手県のほぼ中央にある盛岡市南部に位置し、東に北上川、北に岩手山を望みます。

盛岡といえば、「盛岡冷麺」「わんこそば」「じゃじゃ麺」の三大麺が有名です。

そして、一昨年世界文化遺産に登録された平泉の金色堂。自然に文化においしい食べ物が盛りだくさん。

皆さん是非一度遊びに来てください！！



造影剤副作用カード

(血管内投与造影剤)

(CT / MRI / 血管造影 / 尿路造影)

ふりかへ
お名前
生年月日 (明・大・証・平) 年 月 日

選択項目

A: 即時性		B: 遅延性	
アレルギー	副作用	アレルギー	副作用
(1) 呼吸器	気管支炎・気管支喘息	(1) 呼吸器	気管支炎・気管支喘息
(2) 皮膚	発疹・紅斑・掻痒	(2) 皮膚	発疹・紅斑・掻痒
(3) 循環器	低血圧・心不全	(3) 循環器	低血圧・心不全
(4) 消化器	嘔吐・下痢	(4) 消化器	嘔吐・下痢
(5) 泌尿器	血尿・蛋白尿	(5) 泌尿器	血尿・蛋白尿
(6) 造血系	貧血・血小板減少	(6) 造血系	貧血・血小板減少
(7) その他	その他	(7) その他	その他

ウチの取り組み！

今の時代、電子カルテやRISにより、腎機能や造影剤使用履歴などはごく一般的に閲覧・管理されていますが、当院では平成10年から、自作自前のRISでCT・MRIのオーダーを予約管理してきました。その中に造影剤使用記録帳をリンクさせ、検査使用時に履歴やアレルギーの有無を確認し、技師と看護師で情報を共有して副作用軽減に努めてきました。

検査時も、丁寧な問診で副作用履歴が無いか確認してありますが、最近某医薬品メーカーのサイトから『造影剤副作用カード』をダウンロードし、副作用が出た患者さんに渡すようにしました。これなら他の病院での検査も一目で分かりますね！！

P.S. 昨年の11月に電子カルテが更新され、RISもパワーアップしました。

再発防止に向けて！

新人の看護師、看護助手等、不慣れな職員が過去にMRI非対応の車椅子にて入室しようとした事例がありました。そこで、放射線科医師によるMRIの安全講習に加え、吸着事故を防ぐために、車椅子のみならず点滴架台等のMRI対応物には黄色のテープを貼り、明示しています。さらに、MRI室前の廊下や検査室のドアに注意喚起のポスターを貼り、安全なMRI検査に努めています。



当院のマスコット
“カルガモちゃん”

今年はなんと3家族もやってきて、計22羽のヒナが誕生しました。

患者さんだけでなく、職員の癒しの存在となっています★

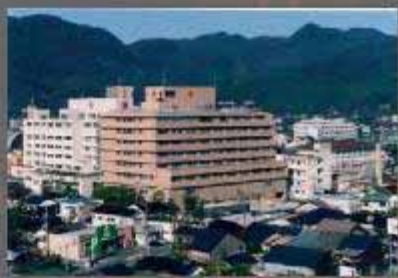


医療安全 知恵の輪！

～放射線部門安全編～

山口赤十字病院 放射線科部

Tel 083-923-0111 E-mail houshasenbu@yamaguchi-redcross.jp



あいさつ・・・

大名・大内氏が京都にならって築いた町「西の京・山口」。日本三大火祭りのひとつとして知られる「山口七夕ちょうちんまつり」は、祖先を祀った大内氏の盆ちょうちんがいつしか庶民の間に広まった、幻想的なお祭りです。山口赤十字病院は、栄華を極めた大内文化が伝わる山口市で、中核病院として地域医療に貢献しています。



ウチの取り組み！

発生したインシデントに対して迅速に対応するため、週に一回のミーティングで、提出されたレポートを技師全員に紹介し、発生した要因や対策について話し合っています。必要ならば、担当している技師に勉強会やレクチャーを依頼することもあります。先日も夜間救急時の造影CTで、造影剤が点滴ボトルに入ってしまったアクシデントが発生し、CT担当技師による造影剤のつなぎ方や三方活栓の確認の仕方の勉強会を開催しました。

再発防止に向けて！

当院では、昨年3月にオーダリングシステムが更新され、RISが導入されましたが、導入前より、患者間違いのミスが年間に数件発生していました。そこで、患者受付の仕方を見直す良い機会であると考え、撮影リストから患者さんの名前を選択する（クリックする）動作を一扫し、必ずバーコードリーダーか、IDカードリーダーを用いて撮影患者を選択することを徹底しています。それにより、患者さんのお名前の聞き間違いや、同姓同名患者の間違いもなく、患者誤認ゼロを目指しています。



インシデントが発生したら、迅速な対応・対処が必要です。新人や若年の技師には、患者の安全を確保した上で速やかに上司へ報告するように指導しています。また、発生した問題に対しては、個人を責めるのではなく情報の共有や再発防止が目的であることを知ってもらい、報告しやすい職場づくりを目指しています。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

伊勢赤十字病院 医療技術部放射線技術課 大山 泰

Tel 0596-65-5337 E-mail raidtec@ise.jrc.or.jp

あいさつ …

当院は、平成24年1月の病院新築移転に伴い、「山田赤十字病院」(旧名称)から「伊勢赤十字病院」という新しい名称になりました。「地域完結型」の医療を目標にし、『地域を一つの病院と考えた伊勢志摩病院構想』など、地域に根付いた医療を展開しています。

ウチの取り組み！

「安心・安全な医療」を実現するため、診療放射線技師の全員が参加し、積極的に取り組んでいます。

たとえば、患者間違えを防ぐためにバーコードによる識別と、患者本人に「氏名と生年月日」を言って頂くことでダブルチェックを行い、より確実な本人確認を行っています。

また、検査部位や内容についても、項目ごとに「指差し呼称」で声に出して確認することで、ケアレスミスを防ぐ努力を行っています。



伊勢神宮



伊勢神宮



伊勢赤十字病院

再発防止に向けて！

インシデントが発生した場合には、時間を空けず、診療放射線技師全員がインシデント分析に参加し、グループごとにKJ法や4M分析などの分析手法を行い、再発防止策を検討しています。

具体的な対策については、TQMの手法等も活用し、より確実な対策を講じて日々の医療安全を心がけています。

たとえば、検査時の不注意なミスを防ぐためのチェックシート代わりに、独自に「確認丸」というツール(右図参照)を作成し、各操作卓に置き、毎検査時に利用し、成果を上げています。



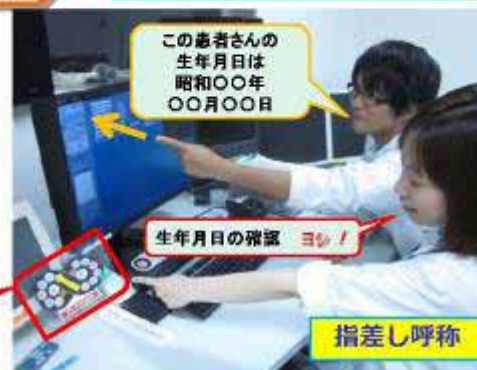
安心・安全な医療

一般撮影の確認丸

すべてのモダリティーで活躍している
伊勢赤十字病院の「確認丸」です。

モダリティーごとに姿を変え、
「安心・安全な医療」のために、
日夜がんばっています。

確認丸



 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 山梨赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

芳賀赤十字病院 放射線科部 係長 山田 隆幸

TEL 0285-82-2195 E-mail haganissekixp@gmail.com



当院は、栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる鬼怒川を抱える自然環境豊かなところです。ここ真岡市は古くから、芳賀地方の政治、経済、文化の中心的役割を担い、江戸時代には「真岡木綿」の特産地として全国にその名が知られていました。現在では、S.Lの走る里としてもよく知られるようになりました。一市四町で約15万人の医療圏となります。



ウチの取り組み！

芳賀地区の二次救急医療の中心的役割を請け負っており、前年度の救急車の受入数を見ますと、月平均330台と県内4番目に多くの救急車を受け入れております。時間外は当直体制で対応していますが、MRI・アンギオ等の特殊撮影は担当技師の呼出で検査を行っています。また、院内の緊急呼出通報として、患者が検査等で急変した時に応援を要請する時は『ブルーコール』、職員に危害が及ぶような事態の時には『レッドコール』を設定し、いち早く職員が現場に急行出来る応援体制を整えています。

再発防止に向けて！

業務上のインシデント・アクシデントは、無いに越した事はないのですが、自分が従事した検査で、院内初の『ブルーコール』を発令した事がありました。総胆管結石の患者の、内視鏡下の検査でERCPを施行中に起きました。検査を始めてから1時間位が経ち、終盤に差し掛かるところでやっとカテーテルが挿入出来ましたが、検査初めから体動が激しく、鎮静剤を多く投与していました。体格が大きいこともあり、さらに鎮静剤を追加したところ、急変し心肺停止（CPA）状態となりました。検査には医師5名、看護師2名と自分が居ましたが、突然CPAとなったことから『ブルーコール』を発令しました。このあと救急室に移動後救命処置を続け、自発呼吸は戻りましたが意識は戻らず、後日大学病院に転院となりました。

このアクシデントが起きたのは、時間外の18:00頃の発生でしたが、研修会や資料の配布等により周知していたこともあり、『ブルーコール』の放送を聞いた職員が20数名が駆けつけてくれました。みんなが集合して頂き、大変心強く感じました。 <m(_)_m>



やまだ から一言

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

益田赤十字病院 放射線科部 技師長 増野 利政

TEL 0856-22-1480 E-mail houshasenka@masudajrc.or.jp

あいさつ …

当院は島根県の西の端に位置し、隣は萩市、又西の小京都、津和野町に接した自然豊かな場所にあります。

当院は平成27年秋に開院をめざし、新築移転の計画が進行中です。放射線科部でも、新病院で縮小される放射線科関連エリアの効率的な運用をめざし、新規及び移設する機器の選定をしています。限られた予算の中でオーバースペックにならないように現在の検査内容を確認しながら行っている最中です。



持石海岸

ウチの取り組み！

放射線科部では、職員の放射線被ばくの防止のために、今まで放射線科部以外で独自に購入管理していた放射線防護用プロテクターを、今年度より放射線科部の一元管理としています。定期的に破損状態を調べ、使用禁止措置や更新を行っています。

また、破損状態の確認には従来のX線透視ではなく、プロテクターに垂直にX線が入射し全体が一度に確認できるCTのCR機能を利用し、撮影したDATAをパソコンに保管しています。

その他の取り組み

最近、当院でもMRI対応ペースメーカーの埋め込みが行われるようになりました。休日夜間の急患への対応が必要と考え、循環器、放科各医師、ME、放射線技師がメーカーが行っているWEBでの講習を受け、対応を行っています。過去に2～3名検査施行しました。



津和野町

とにかく現在は、通常業務に加えて新病院開院に向けて機種選定の為、メーカーにお願いしての勉強会や各撮影室・放射線科診察室・読影室・職員休憩室等のレイアウト決定など忙しくも楽しみながら行っています。

完成後、近くにお越しの際は、見学がてらお寄りください。



(新病院 完成予定)

新病院

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

長野赤十字病院 中央放射線部 佐藤 浩一

Tel 026-226-4131 E-mail tyuhobu@nagano-med.jrc.or.jp

ウィンタースポーツ好きな貴方、温泉好きな貴方、山ガールの貴方、おそばが大好きな貴方、そんな貴方を満足させる場所、それは長野市。

善光寺のお膝元、長野市に当院はあります。白馬、志賀高原、戸隠などへ1時間程でアクセスできます。空気がおいしく、緑がいっぱいとても良いところです。



ウチの取り組み！

当院は700床あり、ポータブル撮影は一日約30～40件、多い日は60件以上あります。ポータブル撮影時の取り決めとして、

- 必ず看護師に介助についてもらうこと。
- 一人撮影ごとに手指の消毒、カセット、グリッドの消毒をする。
- 同じ病棟内の場合、撮影の順番を看護師に確認する。

我々技師は患者さんの情報、状態等知らないことばかりです。

以上のことを徹底することにより、より安全に安心して苦痛も少なく撮影できますし、患者さんや、自分自身の感染予防にもなります。

再発防止に向けて！

ポータブル撮影において、患者間違い、撮影部位間違い、二重曝射等の事例は、少ないですが起きています。

今年度秋にFPD（フラットパネルディテクタ）導入予定です。現在はCRで撮影を行っていますが、FPDで撮影を行うことで、患者間違いと二重曝射は起こりにくくなります。ゼロになるようがんばります。

～初心忘れるべからず～

物事に慣れてくると、慢心してしまいがちです。始めたときの新鮮で謙虚な気持ち、志を忘れずに努めていくことが大切であると思います。



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

沖縄赤十字病院 放射線科部 氏名 上地 励

Tel 098-853-3134 治療室内線 (1189)

初めまして！

沖縄赤十字病院は、平成22年7月に病院、支部、血液センターの3施設の合同移転により機能を集約した「ゆいクロス」として生まれ変わりました。「ゆいクロス」には、相互扶助を实践する沖縄の「ゆいまーる精神」と、人間の生命を守る活動を実践する赤十字を重ね、新しい赤十字の施設が「沖縄」と「世界」を結びつける施設になって欲しいという願いが込められています。軌道に乗りつつある今、院長を先頭に職員一同、一丸となって地域で信頼される病院を目標に努力邁進して参ります。



ウチの取り組み！

当院放射線治療室では、患者・部位の誤認防止対策として、患者が放射線科受付に来てから照射に至るまでに最低6回の本人確認を原則としています。中でも特徴なのが、治療-RIS端末に表示される治療サマリにて患者情報、顔写真、ポジショニング写真での確認が功を奏し、現在のところ治療室での取り違えはゼロです。



顔写真との照合

・ポジショニング
・補助具
・特記事項
の確認



照射室にて

患者ファイルと本人
リストバンドをバー
コード確認が取れ
ると「照合済」と表
示されます

再発防止に向けて！

治療も終盤に差し掛かると患者さんと顔見知りになり、つい事務的な受付を怠り会話を交えて手作業での操作になりがちです。受付で取り違い、治療室に来て確認したら機械で照合されないということがありました。そこで、必ずバーコードで読み取り、ファイルの中身をチェックするという心に心がけるようにしています。いくら優秀なシステムでも、使用上必ずミスは起こるものだと思い、日々の業務に臨んでいます。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療課

次は 栗山赤十字病院 からお知恵拝借！！



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

栗山赤十字病院 放射線科 氏名片岸 賢

Tel 0123-72-1015 E-mail housyassenka@kuriyama.jrc.or.jp



栗山町は人口約1万3千人の自然豊かな町で、道都札幌市や苫小牧港新千歳空港からそれぞれ約1時間の道央圏に位置し、道内各地からのアクセスの良さも魅力となっています。

当院は、一般病床96床、療養病床40床で内科・消化器科・外科・整形外科・人工透析を中心に、一次救急の受け入れなど周辺地域の拠点病院となっています。

放射線科は一般撮影をはじめCT・RI・エコー・X-TV等のモダリティーがあり、4名の技師と1名の補助スタッフで構成されています。



栗山町
Kuriyama Town

うちの取り組み！

栗山町も高齢化が進み、当院の患者様も高齢の方が増えてきております。そのような状況の中、転倒・転落のリスクも高くなっており、病院の基本設計も古いためなかなか対策をとれずにいました。今回、放射線科内での転倒・転落防止対策を行いましたのでご紹介致します。まずは、撮影室の出入り口に段差があったため、これを撤去しバリアフリーとしました。また、患者様の移乗に少人数でも安全に出来るよう、パットスライドを導入しました。両対策とも患者様、スタッフともに好評を得ております。



これを → こうして → こうなりました

再発防止に向けて！

当院もPACSを導入して約3年がたちました。当初は不慣れなモニターでの検像作業、さまざまな確認の不備がありました。その積み重ねにより「どこで」「何を」確認すれば効率よくミス無く出来るのか、形が出来上がってきました。日々の積み重ねの大切さですね。

高齢化が進み、年々介助が必要な方が多くなっていくように感じます。小さな町ですので、みんなが何かしら繋がっていると感じます。患者様に寄り添った安全対策を進めたいと思います。



これを
するう〜っと

こう！！



医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

庄原赤十字病院 放射線技術課 松本 頼明

TEL 0824-72-3111 E-mail yori_8592_8592@yahoo.co.jp

あいさつ・・・

庄原（しょうばら）市は広島県北東部に位置し、西日本最大級の面積に約四万人が暮らす、自然豊かな町です。また、中国山地にも属しており、市域の一部は豪雪地帯にも指定されるほど、冬の寒さが厳しい所としても知られています。（ホント寒い!!）

病床数は310床と中規模病院ではありますが、隣接する岡山、島根、鳥取県からも地域の急性期医療を担う中核病院「最後の砦」として、全職員使命感を持って日夜業務に取り組んでいる病院です。

完成した新棟の一部



ウチの取り組み！

これまで放射線科部門では、インシデントおよびアクシデントの報告件数が他部門と比べ、少ない傾向にありました。その理由の一つに、報告書の記入形式が煩雑であり、全ての事例を記入しきれていないことが考えられました。そこで、報告書の記入形式を見直し、報告書の提出を徹底することで医療安全の重要性を再認識する機会を得たのでご紹介いたします。

まず、統一されていた報告書を、最もグレードの低いインシデント報告書とそれより高いグレードの報告書に分類しました。インシデント報告書は、各モダリティで発生しやすい事例を挙げ、それをチェックするだけの形式としました（事例外は手記入）。これにより記入の手間も省け、容易に報告書を提出することが可能となりました。一方、高いグレードの報告書は、発生の状況を時系列に記入し、その後の対応、発生の要因、防止策、所属長の指導の項目を設け、具体的かつシンプルな記入形式としました。

今後に向けて！

報告書を改定した現在、インシデントの報告件数が大幅に増加しました。今後、部門内外でこの報告結果を分析し、検討することで未然にアクシデントを防ぎたいと考えています。

二棟ある新棟も完成に近づき、機能性の向上も期待してるよ!!



地元のゆるキャラ(笑)



医療事業部 医療課

インシデントレポート

一般撮影 ____年__月__日

- ☐ 名前 間違い
 - ☐ 修正無し
 - ☐ モダリティ内で修正
 - ☐ サーバーで修正
- ☐ 撮影部位 間違い
 - ☐ 修正無し
 - ☐ モダリティ内で修正
 - ☐ サーバーで修正
 - ☐ 再撮影
- ☐ マーカー・回転 間違い
 - ☐ 修正無し
 - ☐ モダリティ内で修正
 - ☐ サーバーで修正
- ☐ その他・気付き

次は 大森赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大森赤十字病院 放射線技術課 樋口 新一

Tel 03-3775-3111 E-mail x-ray@omori.jrc.or.jp

大森赤十字病院は改築工事を2期に分けて行い、平成22年5月に第1期分の新病院が開院し、平成23年10月に344床で全面開院しました。

地域の医療の中で、一人でも多くの方に役立つ病院を目指しています。

大森には、京浜工業地帯として多くの工場があります。また、日本における考古学発祥の地である大森貝塚があります。
ご興味のある方はぜひ・・・



ウチの取り組み！

当課では、造影CTに5種類の造影剤を使用しています。また、造影剤のインジェクターへのセットは看護師が行っています。

造影剤をあける際に、技師と看護師で口頭での確認を行います。技師がRISの会計入力と台帳記入、看護師が薬品請求伝票の記入をしていましたが、業務終了時に使用数が合わない事が何度ありました。そこで、造影剤使用の際に看護師から技師へ造影剤の袋を手渡しし、所定の場所に残しておき、午前・午後の検査と分けて1日2回のチェックを行うようにしました。

前日の当直分の造影剤の袋も翌日の午前分として残してある為、現在のところ請求ミスはおきていません。

再発防止に向けて！

一般撮影において色の違った2種類のCRカセットがある為、写真のように左右で使い分けています。

目で確認することが可能なので、左右の間違いがほぼなくなりました。

また、複数で撮影に入った際の、途中の撮影補助についても間違いが起りにくくなっています。

その他、小児の撮影の際に正側・立臥位での使い分けも行っています。



ヒューマンエラーを無くすることは不可能です。
いかに事故を減らすか。期限の無い課題ですが、他部署とも連携を密にし、医療安全に取り組んでいきたいと思っています。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

山梨赤十字病院 放射線科 小谷 大介 東重 咲

Tel 0555-72-2222 E-mail housyasenka@yamanashi-med.jrc.or.jp

あいさつ・・・

私たちの山梨赤十字病院は、国内唯一の国立公園内にある病院です。富士山麓の自然豊かな環境に立地し、県内唯一の赤十字医療施設として、地域住民と共に歩みつづけています。

2次医療圏における夜間の救急医療を、隣接の市立病院と内科系・外科系1日交代で担うと共に、循環器系疾患患者の24時間受け入れ態勢の整備、NICUの開設など、質の高い安全な医療の提供を目指しております。

また、昨年より電子カルテとPACSを導入し、運用を開始しております。



ウチの取り組み！

一般撮影室二台、CT一台、MR一台、血管撮影一台、X線TV二台、ポータブル二台、マンモ一台、検診車一台で業務を行っています。そして、平日休日に関わらず技師7名が交代で当直業務にあたっています。

昨年の10月に電子カルテの運用となり、放射線科でもRISの導入でフィルムレスに移行。一般撮影では撮影方法の統一化を図っています。

また、患者撮影の間違えを予防するために、外来患者の持つ基本票や入院患者のリストバンドに書いてあるIDと氏名、バーコードを撮影前に確認しています。

撮影する際には患者本人に氏名と生年月日を言って頂き、ダブルチェックをしています。

CT、MRでは、MWMから患者情報取得後、指差し確認なども行っています。

また、建物の設計上、患者様の状態や急変時などに対して各撮影室や廊下からの死角が多く、人数の把握や素早い対応ができませんでしたが、電子カルテ導入と同時にWEBカメラを設置し、一つのモニターである方向から患者様を把握できるようになり、緊急時の確認が早く対応可能になりました。

再発防止に向けて！

5年前にMRIに車いすを入れてしまう事故が発生してしまい、再発防止に向けて技師一人ひとりの意識を高めるとともに、金属探知機を使つてのチェックや患者様への問診、検査前に注意事項をお配りして読んでいただいています。また、金属探知機が必ずしも正確ではないので過信せず疑いがあるときには、頭部、胸部、腹部などのレントゲンを撮影し体内の金属、過去の手術(クリップ、脳動脈コイル、人工弁、ステントなど)がないことを確認して撮影にはいるようにしています。

また、体内金属が入っている患者様には、次回検査するとき技師全員が情報を共有できるようにRISに反映させるようにしています。

今年は富士山世界遺産登録年
これからも山梨赤十字放射線
科をよろしくおねがいします。



医療事業部 医療課

「院内感染対策 知恵の輪！」は先週号を以て、「医療安全・知恵の輪！～放射線部門安全編～」は今週号を以て最終回となります。感染管理担当者の皆様、日本赤十字社放射線技師会の皆様、ありがとうございました。